

# 【徳川家康(竹千代)の苦難の幼少期】

## 不遇を耐え、飛躍の糧とした若き日々

松平竹千代 → 元信 → 元康 → 徳川家康



- ① 1542年: 12月26日岡崎城で寅年の寅の刻に誕生  
松平広忠と於大の嫡男 幼名 竹千代
- ② 1543年: 松平広忠は、今川義元の庇護をうけて、岡崎城を織田方より取り戻す。竹千代の母親於大の方は、在所が織田方の刈谷の水野信元為、松平広忠と離別。竹千代3歳
- ③ 1547年: 織田信秀の三河侵攻に対して、今川家に助けて貰った事から竹千代を今川家に人質に出すことを約束をします。竹千代6歳
- ④ 1547年8月2日: 竹千代が駿河に向かう途中、田原城主戸田康光が織田家の意向を汲んで誘拐する形で竹千代を織田方に送ります。
- ⑤ 1549年: 竹千代の父松平広忠が死去すると、今川義元は、すぐに岡崎城を接收させ、松平の重臣妻子を駿府に呼び寄せます。
- ⑥ 1549年11月: 今川義元は、織田信広の安祥城を攻めて、信広(信長の兄)を生け捕りにすると、竹千代との交換を提示します。
- ⑦ 1550年: 父松平広忠が亡くなり、岡崎城も今川の物となり、竹千代は人質の価値としてのみで生き残れて行きます。城無し子として、今度は今川家に人質として送られます。助けてくれる親も居なく、領主の証として帰れる城もなく、有るのは、馬鹿にされても、織田家から今川家を守る盾にならざるを得ない三河家臣団のみ！  
駿府の今川家で12年間を過ごします。  
\* どうする家康(竹千代)の真骨頂がここから生まれたと思います。
- ⑧ **【どうする家康】**の大河ドラマの放映で、**【長篠・設楽原の戦い】**も舞台となります。この本を片手に、大勢の方が古戦場を訪れ、新城市の魅力を味わって頂くことを歓迎します。



## 【家康の一生はピンチの連続】

三方ヶ原の戦い後、家康が描かしたと伝わる**【しかみ像の絵】**まさにどうする家康のポーズ